
小さな翼

龍二4

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

小さな翼

【Nコード】

N4302P

【作者名】

龍二4

【あらすじ】

あるサッカー好き少年 一宮 渉 がJrサッカーチーム
小さな翼 に入り
いろいろな強敵とサッカーをしていき
渉自身が成長していく感じの小説です

第1ゲーム サッカーやろう!!

この町の公園には子供たちの声があふれていた
どうやらサッカーの練習をやっているようだった
その公園の前を通りかかった9歳ぐらいの少年が公園の中に入って
いった

「サッカー僕にも入れてよ!」

少年は走りながら言った

キャプテンみたいな人が近づいて来て言った

「おい!ここは遊び場ないんだぞ!帰った帰った」

そういつて少年を追いつ出そうする

大人の人がこつちに向かつて歩いてくる

どうやらこのチームのコーチみたいだ

「君何年生?」

「僕?僕3年生!」

大声で少年は言った

キャプテンらしい人はクスツリと笑った

「チビは帰りな!ここは5年からだぜ!また2年後来るんだな」

「こらっ!海斗くんそんなことは言つてはだめだよ」

海斗は鼻で笑つとグラウンドのほうに戻った

「名前は?」

「一宮 渉」

コーチは一拍子おいて言った

「渉君か!いい名前だね」

コーチは続けて言う

「少しサッカーやろうか」

「おじさんいいの!?」

「うん おじさんについてきて」

「ありがとう」

渉はコーチの後ろについて歩いて行つた

コーチがゴール付近で止まると叫んだ

「宇山 亮太 こっちに来なさい」

「はい！」

そう大きな声で言つたのは5年生ぐらいの少年だつた

手にはゴールキーパー用の手袋をはめていた

どうやらゴールキーパーのようだ

「渉君この亮太君はゴールキーパーだから君の実力がどれほど見るためにPKしてくれるかな？」

「うん！」

亮太はゴール前に立つと言つた

「渉君打つていいよ」

ボールと亮太を交互に見た

渉は走り出した

走り出したのと同時に亮太は構えた

渉が力いっぱいボールを蹴つた

第1ゲーム サッカーやろう!! (後書き)

感想などしてくれたら超うれしいです!!

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4302p/>

小さな翼

2010年12月11日15時29分発行